

# 東京社保協 ニュース

東京社会保障推進協議会

〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-33-10

東京労働会館 6F

TEL03-5395-3165 FAX03-5946-6823

東京社保協



## 第14回介護・認知症なんでも無料電話相談 家族介護はもう限界、安心できる介護制度を



2024年11月11日（月）に東京社保協・中央社保協・認知症の人と家族の会の主催で全国32都道府県で74回線配置し、第14回介護・認知症なんでも無料電話相談を開催し、全国で1400件を超える電話相談がありました。うち、東京会場に750件以上の電話がありました。東京会場でもケアマネなどの介護の専門家が8回線の電話をフル稼働で119件の電話相談を受けることができましたが、1件ごとにかかる相談時間が30分から1時間程度と長くなっており、相談の件数は増えているにも拘わらず、電話が取れた件数は昨年の2/3程度になっています。今回の電話相談の特徴は3点ありました。

1点目は、介護疲れなど、家族介護による相談が全体の45%を占めるなど最も多く、「家族での介護負担比率が一部に偏っている」「夜間の介護が非常に負担になっている」「認知症の症状で約束を忘れてしまう家族との接し方」「突然怒り出す親との接し方」など介護環境を改善したいという声が多く寄せられました。

2点目は、例年相談は男女比が1：9程度なのが、今回は4：6程度と男性からの相談が多

くなっていることです。相談内容としても、介護が必要になった家族への接し方や独居の方で「福祉用具を利用したいが手続き方法がわからない」などの家族や自身の介護についての向き合い方などでの相談が寄せられました。

3点目が、利用していた訪問介護事業所が閉鎖してしまったことから、訪問介護やデイサービス、ショートステイを探しているがどうやって探していいかわからないという声が多く寄せられました。

東京の電話相談に寄せられた内容だけでも、介護制度の改悪が事業者だけでなく利用者にも大きく影響してきていることがわかります。誰もが安心して利用できる介護制度をめざし奮闘しましょう。 下記はNHKの取材風景



# はっさく裁判控訴審 12/19結審・報告集会 署名の集約を進めよう

いのちのとりで裁判  
全国アクション  
事務局 田川英信



生存権裁判を支える  
東京連絡会  
事務局長 阿久津豊



自公政権は2013年から3年かけて、保護基準の最大10%引き下げを実施しました。その「処分」の取り消しを求める29都道府県で31(東京が3つ)の訴訟、これを全国的には「いのちのとりで裁判」と呼んでいます。

行政訴訟で原告が勝つのは1割程度です。それなのに、熊本地裁以降の最近の地裁判決では原告が17勝3敗と圧倒する異例の事態です。他方、高裁では現時点で1勝3敗で、既に最高裁で審理されています。もし最高裁で結論が出てしまうと、現在係争中の地裁や高裁も最高裁判例に拘束されます。その意味では、この数か月の最高裁でのたたかいは非常に大きな意味を持ちます。

政府は、裁判で負け続けても訴訟を続け、政治的な解決も拒んでいます。物価偽装とも呼ばれている卑劣な手を使って行政が権限を乱用した場合、それを是正して人権を守ることは司法の役割です。

生活保護制度は、生活に困ったときに利用できる制度で、まさに「いのちのとりで」です。いのちのとりで裁判は勝つべき裁判ですし、勝たなければならない裁判です。司法の役割を果たせという最高裁あての署名を急いで集めています。ぜひご協力ください。

**最高裁あての署名にご協力ください**



最高裁での年度内結審・判決が予想される勝利判決に向けた正念場を迎えます。

**署名は12月16日までに  
東京社保協事務局まで**

厚生労働省は、2013年8月から2015年4月までの間に過去最大の生活保護基準の大幅な引き下げ(平均で6.5%、最大で10%、削減額670億円)を行い、生活保護利用者の96%の世帯が削減の影響を受けました。生活保護利用者は、「食事の回数や惣菜の量を減らす」、「エアコンを止めて電気代を節約する」など、厳しい生活がさらに命を削る厳しさになり、人間らしい生活を希望する前向きな気持ちを奪われ、憲法25条が国民に保障する「健康で文化的な最低限度の生活」を侵害されています。

「生活保護基準引下げ」の違法性を問う東京地裁の裁判では、はっさく訴訟の原告勝訴判決(2022年6月24日)に続き、個人訴訟の判決(2024年5月30日)、新生存権裁判東京訴訟の判決(2024年6月13日)と、東京地裁行政部門部のいずれの判決においても原告が勝訴し、東京高等裁判所に控訴しました。

3つの控訴審、東京高裁への共同の署名行動に取り組みます。特に、先行する「はっさく訴訟」は12月19日に結審を迎えようとしています。続く、中野区の個人訴訟と新生存権裁判東京訴訟の控訴審での勝利をめざす署名(オンライン署名も行っています)となります。ご協力をお願いします。

**東京高裁あての署名にご協力ください**



東京地裁での3つの勝利判決の先陣を切って控訴した「生活保護基準引下げ違憲東京国賠訴訟(通称『はっさく訴訟』)」が東京高裁で結審を迎えます。

## 保険証の存続を求める 署名提出集会 1,774,741筆



11/28(木)に保団連主催で、署名提出集会が開催されました。集会には現行の健康保険証を残すべきという衆参の国会議員が22名参加されました。これまで集約された署名と合わせ、177万筆を超える署名を国会議員へと提出を行いました。



集会では、障全協副会長として障都連の市橋さんが障害を持たれた方から見た保険証廃止の道理のなさを訴え、東京地評の清水さんから労働者の立場からも発言されました。

集会後には、国会前、厚労省前、デジ庁前でマイナ連絡会主催で宣伝行動を行いました。

## 「介護する人・受ける人がともに 大切にされる介護保険制度へ」 11.29学習会開催

11月29日(金)に介護をよくする東京の会主催で、第10期介護保険制度への改悪を阻止する運動をいち早く進めるために学習会を開催しました。学習会には、介護保険部会前委員でもある花俣ふみ代さんに介護保険制度を取り巻く現状を、全日本民医連事務局次長の林泰則さんに運動を進めるための講義をしていただきました。また、新宿介護ユニオンの取り組みやヘルパー労組の取り組み、世田谷での運動を報告いただきました。

<https://x.gd/3ExLR> 上記URLより学習会を視聴できます。資料は概要欄参照

3

## 第37回日本高齢者大会inあいち 全国各地で大運動を！



日本高齢者大会(主催・実行委員会)は23日、名古屋市内で1500人が参加した全体会をオンライン併用で開き、「マイナ保険証の強制に抗議し、現行保険証の発行継続を求める」特別決議を採択しました。

基調報告を畑中久明事務局長が行い、旧優生保護法補償法の成立など人権尊重の確かな広がりがあったと指摘され、65歳以上の人口が総人口の3割になり、ひとりぼっちの高齢者をなくす取り組みの重要性を強調されました。「総選挙で自公過半数割れに追い込み、政治が変わる新しい局面となり、高齢者の要求実現の絶好のチャンス。全国各地で運動を強めよう」と呼びかけました。

来年の大会は埼玉を中心に首都圏の1都3県で共同開催します。

第36回日本高齢者大会in東京第12分科会報告を地域に1部ずつ送ります。

## 地域社保協学習交流集会 いまこそ、地域社保協が 求められている

11月30日(土)地域社保協学習交流集会を現地会場のけんせつプラザ東京とオンラインの併用で全体で50名の参加で開催しました。国保やマイナ保険証の対応についての自治体の動きについて神奈川自治労連の神田敏史さんを講師に講演を行い、保険証存続の運動、生存権裁判、都立病院を守るための運動について報告され、会場から足立から23区長会に対して東京社保協として懇談を申し込むことや大田からは率直に悩みを相談しあえる交流会の要望が出され、実現に向けて行動することを総括しました。

保険証残せ 11.7大集会  
日比谷野音に2,300人



東京社保協も加盟するマイナ制度反対連絡会は、11月7日に日比谷野音で保険証残せ大集会を開催しました。東京土建の中村委員長は、「保険証存続は世論の大勢だ。力を合わせて闘いを進める」と訴え、障全協の家平事務局長は「保険証の発行義務があるにもかかわらず、政府は方針を見直そうとしない。すべての国民と手をつなぎ、ごり押し政策を許さない」の声に続きデモを行いました。

「世直しの導火線なりこの一揆」  
もう黙ってられない！  
年金一揆&フェスタ



11月8日(金)に年金一揆&フェスタが1800人の参加で開催されました。

年金者組合の杉澤隆宜委員長は、「物価高を上回る年金を求める運動に期待が寄せられている。年金者組合の出番だ」と強調しました。

全労連の秋山正臣議長は、「現役世代の保険料引き上げになる」と年金抑制の姿勢を変えない政府を批判。「国民の命と暮らしを守るのが政府の役割だ。」と呼びかけました。

4の日 巣鴨駅宣伝

12月14日(土)

1月14日(火)

12時から13時

10月14日(月・祝)の宣伝には、7団体(東京土建、都生連、東京民医連、東京保健生協、東京地評、中央社保協、東京社保協)45名の参加があり、73筆の署名が集まりました。ご協力ありがとうございます。



LINE 公式アカウント

友だち  
募集中

@955nlosk

LINEの「友だち追加」から、ID検索するか  
QRコードをスキャンしてください



東京社保協 (東京社会保障推進協議会)

各地域・団体のニュースを  
事務局までお寄せください